



北川 栄子
藤田 治夫 選
吉永 幸司

特選 明日は去る事務所へ一輪水仙花

本庄町 田口 洋子

(評) 事務所を去る前日の気持ち、水仙花を通して伝わってきます。転勤・退職という事情は分かりませんが、仕事への思いや雰囲気、仕事をした人への想いを気品のある一輪の水仙花に託されています。(幸司)

特選 寒釣の声の集まる日向かな

佐和町 大久保 豊子

(評) 寒さをものともしない釣人達にも、一息入れる時は日向が良いと見える。今日の体調や、魚が居るの居ないと、てんでにしゃべる様子が思い浮かび、日向が釣人達をやさしく包み込んでいるようだ。(栄子)

特選 再発を抜けし三年春掴む

彦富町 池田 光雄

(評) 癌の宣告を受けての闘病生活だろうか。病気に負けないぞと言う強い意志と信念を持つての毎日の生活。病に耐えての三年の間の感慨が、そして喜びが、「春掴む」に凝縮されている。見事である。いよいよ病から抜けて明るい未来が待っている。お幸せに。(治夫)

入選 石路咲くや裏も表もみな空き家

鳥居本町 寺村 美恵

(評) 人口の減少と雇用が都市部に集中し空き家が増えている現代です。今は空き家になっていますがかつては、日々の生活を豊かに営んでいたであろう家人に思いを馳せ、自生する石路の花を見る時の感慨もひとしおです。(幸司)

入選 悴みし五感ゆるめてる日向

城町二丁目 福原 芳江

(評) 実際は日向ぼこをしているのだが、それを「悴む」と言う季節を通して、身も心もゆつくりと解れてゆく様子が表現されている。日向の持つ大きな包容力と言うものを、感じ取る事が出来る様に思える。(栄子)

入選 城ガイド終えて仲間と春惜しむ

大東町 吉田 芳子

(評) 今年の彦根城の桜は、素晴らしかった。開花も早く、たくさんのお客さんで賑わい、城のガイドさんも忙しく大変だったことだろう。「春惜しむ」の言葉に、ガイド仲間と、ゆつたりとしながら今年の春を懐かしみ、花のこと、ガイドのこと、お客さんのことなど話し合っている様子が浮かぶ。(治夫)

入選 学童の細くたくも植田かな

長浜市 近藤 甚一郎

(評) 学校の体験学習に田植えがあります。植え終わった苗の「細くたくも」から子ども達の興奮ぶりが見えてきます。苗を植えている子ども達の姿や話し声や得意そうな表情を植田から楽しく想像しました。(幸司)

入選 峰宮の琴の音四方へ御代の春

日夏町 寺村澄子

(評) 新年がおだやかに明けたと言う、めでたさと永久とを感じ取ることが出来る。風に乗る峰宮から聞こえて来る明るくて、それでいて心落着く琴の音は、沢山の人々を初詣へと誘う事であろう。

(栄子)

入選 日向ぼこ角のとれたる者同士

正法寺町 高井豊

(評) 長い人生を経てやっと到達した境地。自己主張で張り合ったことなど春の日差しの中で語り合っている。過ぎてきた人生全てが楽しかった想い出となる。安穩なる時間が、「角のとれたる者同士」の言葉に巧みに表されている。穏やかな顔が目に見え。

(治夫)

入選 咲き満ちて一天昏き桜かな

東近江市 坂口靖子

(評) 晴れ渡り、咲き誇る桜の下は、華やかで明るいのが普通である。しかし作者は、「一天昏き」と表現している。この句のよさはここにある。大きな桜の大木の下から眺めると、「昏く」感じたのだろう。新鮮な表現である。

(治夫)

入選 通学の靴の白さや花の門

米原市 山家英一郎

(評) 桜が咲きほころぶ校門を駆け抜ける子どもの姿が印象に残りました。「靴の白さ」を新しい靴と理解して作品に向かうと、成長の喜びや気持ちの張り、勢いが思いが広がり、しっかりと頑張っていると応援したくなります。

(幸司)

入選 旅人と一会を語る花の城

馬場二丁目 西川典子

(評) 茶の湯の名言として「二期一会」が知られています。一生に一度の出逢いを大切にすべきという意味で、この言葉が井伊直弼の「茶湯一会集」から生まれたそうです。「旅人」「城」から作品の深さを感じました。

(幸司)

入選 暖かや時間長者の立話

日夏町 寺村房子

(評) 時間長者と言う聴きなれないが、なるほどと思える言葉に惹かれた。金持ちだけが長者ではないと言う、発想も楽しい。ゆったりと生きる仕合せ感も十二分に伝わってくる。

(栄子)

入選 ひとり居の手抜き上手よ山笑ふ

平田町 石田そとゑ

(評) 手抜き上手とは言いが、普段はしっかり和家人全般をこなしているからこそ言える言葉なのである。「山笑ふ」という季題の選択からも、思わず笑える面白みと巧さの両方が備わっている。

(栄子)

入選 鉄瓶の音なめらかや春来る

米原市 西尾辰之

(評) 鉄瓶をこよなく愛されている方が、茶道をたしなまれていの方だろうか。「鉄瓶の音」の微妙な変化に着目された佳句である。毎日沸かす鉄瓶の音。季節の移ろいとともに変わっていく季節を知らせているのだろう。待ち望んでいた春。「音なめらか」が効いている。

(治夫)

佳作 風光る初めて歩く通学路

開出今町 西崎 八重子

佳作 歴代の商家見て来し雛の黙

西今町 松本 トシ子

佳作 大らかに歪いびつな畝に大根蒔く

日夏町 林 正子

佳作 光陰こういんのゆるやかに行き花笥はないかだ

地藏町 馬場 美也子

佳作 さざんかや息をゆるめて花ひらく

池州町 戸田 雅子

佳作 一献に労ふ夕餉花菜漬

長浜市 樋口 満智子

佳作 春愁や黙を貫き通し来て

米原市 成宮 義雄

佳作 新涼や行き交ふ顔の柔らかし

後三条町 北村 しげ子

佳作 初電車乗り継ぐ駅も無人駅

米原市 田辺 仁美

佳作 人力車ゆるり師走の城下走す

松原二丁目 松林 秀香

佳作 爺様の昭和の自慢諸子釣り

古沢町 戸成 晴美

佳作 百日の祝の膳や雛の間

米原市 奥村 和子

佳作 点滴はかたづけられて冬の窓

芹川町 戸田 ももか

佳作 百選の水に鯉跳ね水温む

西今町 小沢 三男

佳作 日本より出ることなく葱きざむ

東近江市 松本 ちずる

佳作 散る花に大老偲ぶ彦根城

稲里町 渡邊 昭夫

佳作 木の芽出づ日毎日毎に知恵づく児

犬上郡甲良町 村岸 千鶴子

佳作 満ち満ちて一村包む桜かな

東近江市 平田 三栄子

佳作 梵鐘の響き柔らか春の山

小泉町 北村 邦彦

佳作 暖かや上着を腰に昇る城

西今町 秋口 大門

佳作 秋しぐれ手術真近かの時刻む

下稲葉町 上田 タツ子

佳作 お日様のような子が来てみかん食む

下西川町 古川 たけ

佳作 春立つや婚の祝の品選ぶ

高宮町 細田 恵貢子

佳作 照らされて心透かさる冬の月

外町 筑田 弘正

佳作 名月が一つ一つに千枚田

長浜市 野口 成人

佳作 啓蟄や陽気が誘ふ庭仕事

地藏町 佐古 徳子

佳作 蒼天や五感満ちたる花の昼

芹橋二丁目 大野 ゆう子

佳作 ありし日の母を重ねて日向ぼこ

稲里町 藤野 千枝子

佳作 二度三度霞へ鳴らす汽笛かな

日夏町 寺村 滋

佳作 小春日を遊びつくして子の眠る

京町二丁目 堀井 叔子

佳作 窓を開け轉の輪に入りにつけり

東近江市 河崎 章

佳作 黑板に感謝の二文字卒業す

高宮町 前川 菅子

佳作 相傘で巡る城下や春時雨

城町一丁目 松本勝幸

佳作 リハビリの帰りは歩き花菜道

馬場二丁目 清水はる

佳作 子らの声余韻のこして花散りぬ

長曾根南町 堀本隆子

佳作 軒合わす雪解けしづく路地日和

西今町 前田弘子

佳作 仕合せとはこんな色かも花万朶

米原市 日比陽子

佳作 玉砂利の筈新たに初詣

中藪町 山川美江

佳作 太鼓たいこ打うつ女おんなの腕うでに風光かぜひかる

外町 筑田豊子

佳作 老幹は村の歲月梅白し

小泉町 菅生鈴子

佳作 白露の命かがやく棚田道

稲里町 田辺好子

佳作 燕くる勝手知りたる納屋の軒

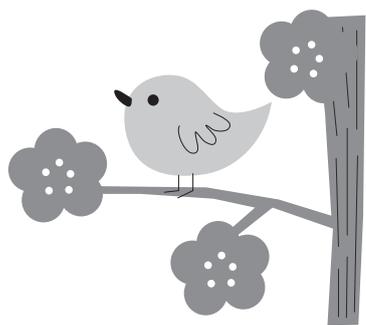
普光寺町 藤田せき子

佳作 今にして学ぶことあり八十の春

古沢町 大橋しず

佳作 春の香や城址へどつと無人駅

鳥居本町 滝口寿美夫



《総評》

応募句三百三十六句を拝見し、決まった数以上に丸を付けたくなる程の粒揃いでした。

景色の描写では、色彩や句等の表現に工夫が感じられ、生活感のある句では、人生の一端を見る様にも思い、心を打たれました。

あれもこれもと言いたい、言わなければ読み手に伝わらないだろうと、つい言い過ぎてしまいがちですが、俳句は省略が大切ですので、少し言い足りないくらいが丁度良いのではと思います。

今回は、彦根城とその近辺を詠んだ句が少なかつた様ですので、次回は是非とも名所、旧跡を詠み込んでみて下さい。

兎にも角にも多作を心掛け、暮らしの中から旨く一句を切り取り、次回の応募に備えて下さるのを心より期待し、お待ちしております。

北川 栄子

今年もたくさんのお応募があり、興味深く読ませていただきました。それぞれの句のよさを味わいながら、選句するのに苦労をしました。それぞれの人生の生き様や季節感が自分の言葉で綴られた句が多く感じしました。

句づくりは、楽しみながら、また、生きがいのひとつとして取り組むのが常道ですが、なかなか思うようにはできません。しかし、あれこれ言葉を捜し迷っている時間、自然界をゆったりと眺めている時、自分の思いとびつたりの言葉が見つかるときめきます。楽しさも生まれてきます。自分らしい句をたくさん作ってください。来年を楽しみにしています。

藤田 治夫

俳句は、季節の風景やその時に感じたことを十七文字の短さに表現するので伝えたいことの選び方と表現する言葉の適切さがだいじだと思っています。応募作品は、生活のひとこま上手に表現したり、花や樹木、景色、建物を深く観察をされていると伺えるものが多く、丁寧に読ませていただきました。

印象に残った作品は、動きがあり、変化や感動が伝わってくるものでした。短い言葉から想像を広げ、納得できるものの共通するのは意外性であり共感です。「なるほど」と思える作品には訴える力がありました。

作品を読んだ後に快さが残ることも大事だと思っています。普通の言葉で表現すると説明になったり言い過ぎになったりします。繰り返し読みたくなる作品からは、言葉の選びかたや使い方の工夫が伝わってきます。

時間をかけて深く観察することに気持ちを向けると、作品を作りたいという気持ちが高まり上がってくるといわれています。

吉永 幸司

選者吟

薔薇園の香を低く閉づ雨意の風

北川 栄子

寒月や風紋際立つ大砂丘

藤田 治夫

山袈の深き湯の郷若葉風

吉永 幸司